

報告

2020 年度全国大会・第 1 回国際遠隔会議報告

第 8 回全国大会実行委員長・副会長 (九州支部長) 原 隆幸^A

さる 2 月 6 日 (土)・7 日 (日) に、グローバル人材育成教育学会の第 8 回全国大会・第 1 回国際遠隔会議が、鹿児島大学を会場とし、オンラインで開催されました。大会テーマは「アジア・太平洋最新教育事情と国際交流のニューノーマル～現地の COVID-19・大学の授業状況・派遣と受入留学の現状～」、英語では、Towards the New Normal: Current Educational Situations and International Exchanges in Asia-Pacific Regions and The Impact of COVID-19 on International Student Mobility となっており、遠隔会議方式の特性を活かして開催しました。通常は大会を担当する支部の理事を中心に会員の先生方の協力を得ながら大会準備を進めていきますが、今回はその枠組みを超え、全国の会員、特に関東支部の会員に協力していただきながら、準備を進めてまいりました。オンラインで全国大会を行うことや全国の先生方による大会実行委員会は初の試みでした。また、オンライン開催ということで、海外の大学の先生方に参加いただき、ご発表いただくのも初の試みでした。2 日間で国内外含め、延べ 200 名以上の参加がありました。2020 年 10 月下旬に九州支部の先生方で Zoom 会議を行い、12 月上旬には本部の先生方を含め本格的な会議を Zoom で行いました。今回は 1 度も実際に集まることはなく、Zoom と実行委員会の ML のみで全ての作業をみんなで分担しながら行ってまいりました。

初日は、13 時の開会后、勝又会長による挨拶、鹿児島大学の理事 (教育担当) 兼総合教育機構長である武隈理事による開催校挨拶から始まりました。その後、九州支部の新たな研究会である Reading assist 研究会の発表と異文化対応力育成研究専門部会の活動報告がありました。Reading assist 研究会は「リーディング・

アシスト・システム教材の開発と実践検証」と題して、佐賀女子短期大学の青柳達也先生が代表で、リーディング・アシスト・システム (RAS)、実践検証の方法、実践検証の結果、RAS の運用に向けて、の各項目に関して発表してくださいました。RAS は大学生を対象とした英文リーディングにおける語彙学習教材であり、これは学習のモチベーションを維持し、学習者の英語力に合わせて語彙の日本語訳を表示するシステムとのことです。検証結果も比較的いい結果がでていたことが報告されていました。今後は高校生を対象にした教材や実践も検討していきたいとのことで、これからの研究会の活動が楽しみです。

異文化対応力育成研究専門部会は「異文化対応力育成研究専門部会活動報告—質問紙 2018 年度版から 2019 年度版へ—」と題して、長崎大学の古村由美子先生、大阪体育大学の工藤俊郎先生、福岡大学の佐々木有紀先生が発表して下さいました。古村先生は異文化対応力育成研究専門部会の発足から現在に至るまでの活動と異文化対応力測定尺度による質問紙に関して、工藤先生は質問紙の変更点と全体の分析結果に関して、佐々木先生は福岡大学の分析結果に関してそれぞれ報告がなされました。最後に「これからの活動について」として、コロナの影響で海外渡航ができず、海外派遣プログラムが全てキャンセルされたが、このような状況の中でどのようにこの質問紙を活用していけるのかの展望が示されました。

その後、休憩時間を挟み、第 16 回 JICA 理事長賞を受賞されたアーナンダ・クマラ博士 (名城大学初代外国語学部長・教授) から「我、日本とスリランカの架け橋とならん—日本で交際交流・国際協力活動に携わって—」と題して、特別記念講演がなされました。クマラ先生がどのように日本に興味を持ち、日本に来るようになったのか、日本に来てから何を学び、何

^A 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター

に興味を抱いてきたのか、どのように国際交流と国際協力活動に携わってきたのかについて詳しく知る機会となりました。その後、勝又会長による質疑応答と、勝又会長から祝辞が述べられました。

2度目の休憩を挟み、学会論文賞を受賞された大阪大学接合科学研究所の勝又美穂子先生と同じく大阪大学接合科学研究所の橋本知恵先生に対する授賞式と受賞者スピーチが行われました。まず、小野理事長による受賞者の先生方の略歴の紹介、その後、筆頭著者である勝又美穂子先生によるスピーチが行われ、勝又会長から祝辞が述べられました。

初日の休憩時間には賛助会員によるプロモーションビデオを流すという初の試みが行われました。初日の最後は、九州支部総会が行われ、九州支部長である原より次年度の運営体制等について報告が行われました。

2日目の午前中は海外からの招待講演 (English Session) と専門部会の企画が同時に行われました。まず10時から12時まで招待講演として、大会テーマである “Towards the New Normal: Current Educational Situations and International Exchanges in Asia-Pacific Regions & The Impact of COVID-19 on International Student Mobility” と題して、オーストラリア、台湾、アメリカの状況に関して講演が行われました。司会者として、Nicole Sonobe 先生 (Vice-director・International Exchange Center・Nishi-kyushu University)、講演者として、オーストラリアから Dr Courtney Pedersen (Senior Lecturer・Queensland University of Technology)、台湾から Lynne Lee (Vice President of International Affairs, Vice President of Industry-academia Affairs and University Extension, Assistant Professor, International Business and Trade Program・Ming Chuan University)、アメリカ・ハワイ州から Damian Zukeran (Special Program Coordinator・University of Hawai‘i Kapi‘olani Community College)、Joseph Overton (Department Chair, Paul S. Honda International Center and Professor, Political Science・University of Hawai‘i Kapi‘olani

Community College)、Takashi B. Miyaki (Admissions and marketing・University of Hawai‘i Kapi‘olani Community College) が参加され、発表が行われました。

一方、11時から12時30分には、別のZoomで専門部会である教育連携部会の企画「JAGCE Youth: U-25 スピーチ大会“いまを生きる”」が開催されました。高等学校からは愛媛大学附属高等学校、鹿児島県立喜界高等学校、桐蔭学園高等学校、明治大学付属明治高等学校の生徒が、大学からは玉川大学、明治大学の学生が、社会人としては喜界町外国青年招致外国語指導助手、玉川大学卒業生が参加し、スピーチが行われました。

お昼には賛助会員によるリアルタイムでのプロモーションが行われました。

午後は招待講演 (日本語セッション) と指導学生発表 (選抜) が同時に行われました。まず13時15分から15時15分まで招待講演として、大会テーマである「アジア・太平洋最新教育事情と国際交流のニューノーマル～現地のCOVID-19・大学の授業状況・派遣と受入留学の現状～」に関して、日本、スリランカ、ベトナムの状況に関して講演が行われました。司会者として佐賀女子短期大学の青柳達也先生、日本・スリランカについては名城大学のアーナンダ・クマール先生、ベトナムについては大阪大学接合科学研究所の勝又美穂子先生が参加され、COVID-19の影響下での大学の最新事情をご紹介いただきました。

一方、13時から15時30分まで、別のZoomで指導学生発表 (選抜) として、教員の指導を受けた学生による発表が5件行われました。このセッションでは、学生3名が司会を行い、このセッションをまとめていきました。

最後に、閉会式後にはZoomにて情報交換会が行われました。

また、通常は複数の会場に分かれて行われる一般演題と賛助企業の発表ですが、今回は非同期型プログラムとして位置づけ、オンデマンド型の一般演題と賛助企業の発表の形式にして行いました。発表が採択された方は、事前に発表動画を録画し、それをYouTubeに

限定公開でアップし、そのリンク先をプログラムに掲載する形にしました。指導学生発表も同様の方法で行いました。そのため、参加者は、期間中は空いている時間にそれぞれの URL にアクセスし、発表を聞くことができました。

大会実行委員長として、学内業務の合間を縫って、昨年末からご協力とご支援いただいた先生方に心より感謝申し上げ、報告に代えさせていただきます。ありがとうございました。

受付日 2021 年 3 月 8 日、受理日 2021 年 3 月 13 日